

# 北海之光

7月号 北海道教区報

どのような道を歩むときにも主を知れ  
主はあなたの道筋をまっすぐにしてくださる

箴言3章6節

発行所 北海の光社  
001-0015 札幌市北区北15条西5丁目1-12

日本聖公会北海道教区事務所

電話 011-717-8181

FAX 011-736-8377

E-mail:hikari@nssk-hokkaido.jp

http://www.nssk-hokkaido.jp

発行人 笹森田鶴



## 「暗闇の沖に向かつて」

旭川聖マルコ教会牧師

深川聖三一教会管理牧師

稚内聖公会伝道所管理牧師

留萌キリスト教会協働司祭

司祭 コルベ 下 澤 昌

「イエスは、逆風のために弟子たちが漕ぎ悩んでいるのを見て、夜明け頃、湖の上を歩いて弟子たちのところへ行き、そばを通り過ぎようとした」(マルコ六：四八)

弟子たちは、湖上で、逆風に遮られて夜通し船を漕ぎ続けていました。もうすでに湖の上は暗闇です。本当の真つ暗闇です。その闇の中を、自分がどこにいるのかを知るすべもない状態で、弟子たちは怯えながら朝方まで船の中で逆風と闘っていたことになり

ます。イエス様の不思議なところ、いつもは弟子たちと一緒にいるのに、時々、弟子たちを離れて一人で山に籠もったり、弟子たちを別の場所に派遣したり、今日のように先に行かせたりします。弟子たちはイエス様を、時々、自分たちを置き去りにして離れてしましてお方だと感じていたでしょう。イエス様は、弟子たちと不思議な距離の取り方をされるのです。私たちがそうに感じる時があります。イエス様を、いつも共にいてくださる方と私たちは信じています。しかし、時々、本当にイエス様は、いま私と共におられるのかと不安になることがあります。そこで思い出したいのは、イエス様が、「私は良い羊飼いです」と言われたことです。羊は普段、自分で寝起きし、移動し、草を食べます。羊飼いは確かに羊を守りますが、かといって常に自分の横にい

て、至れり尽くせりで、困ったらずに抱きかかえてくれるとは限らないのです。確かに、神様の不在を感じることはありません。しかし、そこにはふさわしい「時」というものがあるのかもしれない。私たちは、自分で歩ける限りは力を尽くして歩き、どうしても立つことが出来なくなっても助けてくださいるのです。大切なのは希望を持ち続けることであり、自立する力、自分で未来を切り拓いていく力を、私たちはすでに神様から十分に与えられていると知ることです。

暗闇の湖上にいる弟子たちもそうでした。恐怖を感じながら、懸命に舟を進めま

す。しかし、とうとう力の限界と恐怖が頂点に達した時に、イエス様が現れます。時は、夜が明け始める頃。つまり、暗闇の時が終わり、朝の希望の光が東の山の稜線を浮かび上がらせる頃です。しかし、イエス様の姿は生きた人間とは思えない、まるで幽霊のようだった。さらに、自分たちの横を通り過ぎようとしています。その姿は、自分たちを見捨てるように見えたかもしれないませんが、実際の所は、暗闇の中を希望に向かつて進む姿を、弟子たちに示しておられるのです。弟子たちにとつては恐怖の対象でしかない暗い沖に向かつてイエス様は進もうとしている。なぜなら暗闇の中に希望があるからです。希望を失えば、イエス様は幽霊にしか見えない。しかし希望があれば、イエス様はイエス様として目の前におられます。

五千人の給食の直後にもかかわらず、希望よりも、闇に對する恐怖が勝ってしまった弟子たち。私たちもまた、暗闇で固まってしまふことがあります。病気の時、人との関係がうまくいかない時、自分の限界に直面した時などなど。そんな時、まだ暗い湖上を沖に向かつて、希望に向かつて進んで行くイエス様の姿を見出したいものです。

―心の窓をひらく―

## 福音と私(二八二)

―今、なぜ、私はキリスト者として生きるのか―

岩見沢聖十字教会信徒

ヨセフ 石川 真 一



### 【私の好きな聖句】

二人は、「道で話しておられるとき、また聖書を説明してください」と語り合った。

(ルカ二四章三三節)

イエスは、「ここに何か食べ物があるか」と言われた。そこで、焼いた魚を一切れ差し出すと、イエスはそれを取って、彼らの前で食べられた。

(ルカ二四章四二節)



妻の病を機に、私たちの教会生活は転機を迎えることになりました。

妻の通院や所用



で岩見沢へ出掛けた時は、図らずも岩見沢聖十字教会の前を通過することに。園庭では元氣よく遊ぶ子どもたちの姿が目に入ってきました。「遅しいねえ」とそうつぶやきながら、いつしか私の頭は五〇年以上も遡り、彷徨い始めるのでした。

古い園舎の屋根裏に四畳半程のお粗末な部屋が三部屋。学生が三人。彼らはそこで学業に励みながらも(?)教会の諸々の行事に関わる生活(さながら修道院を思わせる様な)をしています。教会の用事に加えて園の先生から「学生さん〇〇が壊れたからみてくれるー」とお仕事。また「学生さんトイレは綺麗に使ってヨ!!」とお叱りも。この屋根裏部屋「学生センター」と呼ばれていました。

ある日曜日の午後、青年会が終わり帰ろうとすると、牧師とセンター住人が近寄り、「一部屋空いたからどうだ」とお誘いの言葉。私は大学の寮に入っていました。あまり馴染めなかった事と、親の負担を少しでも軽くしたいとの考えで、夏休み前には寮を出て学生センターの仲間入りに。世間知らずですねえ。「只ほど怖いものはない」と昔から言うじゃありませんか。まあそれはともかく、教会どっぷりの生活の始まりでした。

土曜日の午後、輪転機の音が鳴り響く頃には、顔触れが揃っていました。実は輪転機を見るのはこの時が初めて。このような印刷現場も初体験でした。当時はガリ版の時代。たくさんの印刷物を前にして、「原紙切り人教会(原始キリスト教会)」と牧師の口から。誰も受けない。週報や月報の折り方の手ほどきを受ける。

午後三時を過ぎると、もう薄暗くなってくる。この薄暮の時にクリスマスイブのキャンドルサーブスが行列、午後六時にキャロリング隊が出発。各自ペンライトを持ち、徒歩で教会員宅を回る。さて、その時私は冬靴を持っていない。圃場で履く普通のゴム長靴。誰かが荒縄を巻くと良いと言うので試してみただけ効果抜群とまではいかない。雪道はよく滑る。よく転ぶ。星空が綺麗。教会着、午前三時。

エピソード一

エピソード二

エピソード三

エピソード四

常置委員会報告

第八回 六月二六日

《協議事項》

一、横山光紀さんの聖職候補生志願を受け、常置委員との面接を行い、主教に推挙した。  
二、北海道教区・東北教区合同教役者会を来年の五月二六日の日程で行う事とした。

三、二〇二五年度の予算案策定に向けて協議した。

四、日韓ユース平和フォーラムに、宮本樹さんを教区より派遣することとした。



主教室から

「働き人は少ない。北海道は特に甚だしい…。五カ所が無牧、神学校には七名の神学生が学、みただけである。(中略)北海道には約三百の町村があるが、教会が働いているのはその中僅か二七だけである。」(『教区九〇年史―日本聖公会北海道教区』より)

今から九九年前、CMSが北海道に伝道を開始してから五一年後、後の北海道教区第三代教区主教となるゴードン・J・ウォルシュ主教がまだ司祭であった折に、CMS本部への報告として北海道教区の窮状を訴

えた文書の一部です。当時最も重要な課題はCMSの北海道からの退去計画でした。人員的にも靈的にも、経済的にも大きな支えであるCMSの退去を思い留めさせ、さらなる支援を求める文書を送られたのです。その後、教区主教となったウォルシュ主教は北海道教区の宣教活動強化のために遠方への巡回を重ね、信徒を励まし、ひたすらご自身の身をささげてくださいました。二〇二二年ランベス会議の後、友人を訪ねてイリーに出向き、次の日、友人とイリー大聖堂をお訪ねしました。荘厳で美しく、またとても広く広い聖堂内を巡っていた時、小

さな祭壇の横の壁に埋め込まれていた銘板を見つけた。そこにはウォルシュ主教のお名前と一九一四年から一九四〇年まで日本で宣教師としてお働きになり、内一九二七年からは北海道教区主教として奉職され、さらに日本語での「信望愛」とともにこの銘板が北海道教区の人々によってウォルシュ主教の記念として贈られたとの記載がありました。漢字は一九七五年に留学中の大友正幸司祭の筆でした。お恥ずかしいことに全く予備知識のない中でこの銘板を偶然見つけた時のわたしの驚きと感激は、今でも忘れることはできません。まるで百年の時を経てウォ

ルシュ主教に強く逞しくあれと励まされた思いでした。  
今年、わたしたち北海道教区は宣教開始一五〇年を迎えています。百年前から変化したこともしなかつたことも含め、それでもわたしたちは福音宣教のためにこうして立っています。すべては神のみ国の実現のためです。これからもさまざまな課題を抱えながらも、また悩みながらも、わたしたちはともに歩み続けま

す。そのために聖霊のお導き、また先達たちの励ましを心から祈り求めます。歩き続けよ、福音の道を！  
主教 マリア・グレイス 笹森 田鶴

公 示

教主降生 2024年6月10日  
日本聖公会北海道教区  
主教 マリア・グレイス 笹森 田鶴

下記のように人事異動を行います。

司祭 ヨハネ 池田 亨

2024年6月10日付けで岩見沢聖十字教会管理牧師、岩見沢聖十字幼稚園チャプレンの任を解く。

司祭 クリストファー 永谷 亮

2024年6月11日付けで岩見沢聖十字教会管理牧師、小樽聖公会協働司祭に任命する。

司祭 ビリポ 越山 健蔵

2024年6月11日付けで岩見沢聖十字幼稚園囑託チャプレンを委嘱する。(2025年3月31日まで)。

十 教区逝去教役者 記念聖餐式

八月四日(水)

午前10時30分

於 主教座聖堂

次の方々を覚えて祈ります。どなたでもご参列ください。

執事 高津 守三郎

司祭 林 兼治

執事 高橋 俊夫

伝道師 高野 万次郎

司祭 上田 貞雄

伝道師 清川 成七

伝道師 石原 園井

司祭 村瀬 敬輔

宣教師 チャールズ

執事 高橋 俊六

一九四五年八月三〇日

ネットルシップ

一九二八年八月二八日

# 宣教一五〇年実行委員会報告 (16)

司祭 サムエル 吉野 暁生

みなさんこんにちは。宣教一五〇年実行委員会です。いやあ、素晴らしい礼拝になりましたね。いろいろ至らない部分も多かったと思いますが、たくさんの方が集まる事ができたことに感謝いたします。と言つてもこの原稿を書いているのは六月末なので、あくまでこれは想像です。でも、本当に良い礼拝になる、そんな予感がしています。

宣教一五〇年は「記念礼拝」で終わりではありません。今年一年、そして来年と、続いていく企画もあります。わたしは「宣教一五〇年」というのは、その年で終わるのではなく、今年から始まるムーブメントだと認識しています。「すでに終わったこと」ではなく、「今、起こっていること」「まだまだ続くこと」だとみなさんが認識していただけたら幸いです。さて、それでは様々な進捗についてお知らせ



せします。まず、いよいよ「福音とわたし」の冊子の第一号が発行される見込みです。信徒家庭に一冊ずつ配布予定です。(一人一冊ではないことをご容赦ください)

連続講座「アイヌとキリスト教」も第三回が七月二三日に行われます。当日急に視聴しようとしてもできませんので、事前に申し込みをお願いいたします。また「なんでもんな講座をするのかの意義がわからない」とのご意見を頂戴していますが、これは「日本聖公会北海道教区がかつて関わってきた『アイヌ宣教』について見直し、考えるため、広い視点を持つて、まず学びなおすところから始めよう」ということです。

黙想会の次回は少し間が空いて八月三一日に留萌で行われます。また「教会スタンプラリー」の企画が進んでいます。新しいグッズも記念礼拝でみなさんにお披露目できたかと思えます。ではまた来月お会いしましょう。

## 秋田聖救主教会

一九〇一年に伝道開始一九〇三年に現在地に初代聖堂が建設されました。秋田市に立地し、おいしいお酒やお米を扱ったお店が軒を連ねる川反もすぐ近くにあり、同時に歴史的な名家も多く点在するような場所で宣教をしています。一九〇五年に歴史が始まった「聖使幼稚園」も併設され、地域の幼児教育に昔から取り組みつつ、教会と両輪となつて歩んでいます。聖堂は市の文化財にも指定されており、教会見学や、建築に興味を持たれる方たちが訪れています。



## 北海道教区宣教協議会

テーマ 「歩き続けよ、福音の道を」

札幌キリスト教会

ステパノ 津田 尚

既にお知らせしているように、昨年十一月に山梨県清里で行われた「日本聖公会宣教協議会」を受けて「北海道教区宣教協議会」を計画し、準備を進めています。

現在、教会を取り巻く厳しい状況(信徒の高齢化と減少・教役者不足と多忙化・教会財政の悪化等)があり、教会規模に関わらず、誰もが未来への不安を持っています。

でも、いいえ、だからこそ、どんな小さな歩みであっても、そんなの当たり前といわれるような歩みであっても、「各教会がどのようにしてイエス様の示された福音を伝えていくか」としていいのか。どのようにして教会が地域と共に歩んでいこうとしているのか」を分かち合いたいと思います。

私自身、全国の宣教協議会に参加し「私たちのあゆみ」物語を聴く」のプログラムで、「沖縄の屋我地聖ルカ教会の小

さな動き」「九州の巖原聖ヨハネ教会の物語」「秋田の大館聖パウロ教会のあゆみ」をビデオメッセージで視聴した時は、心温まる感動を覚えました。きっと北海道の教会にも同じような歩みがあるのだと思いました。

では、「北海道宣教協議会」でどんなことをするのかというところ、第一回の一〇月四日には「聴きあうことから始めよう」というサブタイトルで、各教会に書いていただいたアンケートをもとに、課題やアイデアを出し合うことを中心に話し合います。

第二回目の来年四月二九日には、「ピンチをチャンスに」というサブタイトルで、一回目に話し合われたことをまとめて、これからの方向性を提示したいと考えています。

六月九日にチーム北国の活動の一環で「東北教区・大館聖パウロ教会の物語を聴く会」が全道に配信されました。各教会にDVDも配られますので、ぜひご覧ください。お互いを知ることから始める事が必ず次につながることを信じています。

# 二〇二四年度管区総会報告

執事 エリサベト 三 浦 千 晴

今年は、二年に一度の管区総会開催の年。

教会を教区に合併することの承認を求めるものでした。

日本聖公会第六八(定期)総会は、五月二八日(火)から三〇日(木)までの三日間、東京教区主教座聖堂聖アンデレ教会礼拝堂ならびにホールを会場に開催されました。

各会の報告の中で、笹森田鶴主教は、「祈祷書改正委員会報告」を委員長として説明され、祈祷書改正の働きが佳境に入りつつあることをお話しくださいました。また吉谷かおるさんは「女性に関する課題の担当者」の報告をされ、新たな数値目標「二〇三〇四〇(二〇三〇年

子司祭、そして私の四名で、さらにマリア・グレイス笹森田鶴主教を加えた五名が北海道教区の総会議員を務めました。総会全体は、九名の主教議員、二二名の聖職代議員、そして二二名の信徒代議員から構成され、会期中三二の諸報告を聴き、三四の議案を審議し、うち三三の議案が可決されました。本会の議案は、そのほとんどが教区合併に向けた当該教区の規則変更と、

までに意思決定機関に占める女性の比率を四〇%に」を発表されました。そして総会への事前質問に、大友宣さんが四つの質問事項を提出され、各委員会責任者の文書と口頭による回答を得ることができました。総会議事日程は、「朝の祈り」に始まり、「夕の祈り」に終わります。第一日目の「夕の祈り」で、木村夕子司祭が司式をされ、私が旧約聖書を朗読させていただきました。

ました。この様に、北海道教区の総会議員全員が、今総会の中で何らかの声を発していたことをご報告いたします。第一日目、一六時三〇分より一八時まで、「人權の学び」としてマイノリティー宣教センター共同主事の渡邊さゆりさんのお話を聴きました。その取り組み紹介の中で、人權の取り組みとは、暖かく、楽しいはずのものであり、「祈り」は「アクション」でもあるという言葉には、大いに感銘を受けました。

今総会で任期を終えられるルカ武藤謙一首座主教の後任に、投票を四回重ねた末、ダビデ上原榮正沖繩教区主教が選任されました。総会最終日、すべての議事が終了し閉会宣言がなされた後、直ちに首座主教就任式が礼拝堂にて執り行われました。上原首座主教は、七月一五日に行われる北海道教区宣教一五〇年記念礼拝にご出席くださる予定です。

## 歴文の窓2024(7) アイヌ聖公会と聖歌集

宣教一五〇年を記念した新聖歌「ピリカ レラ モシリ」が礼拝で用いられている。

CMS日本伝道の当初の柱であったアイヌの人々への宣教活動にはローマ字によるアイヌ語の祈祷書や新約聖書とともにアイヌ語聖歌も使われていた。

一九〇六年のアイヌ語式文には三四曲のアイヌ語歌詞が記され、英語の曲譜名が付いている。索引から当時どのようなメロディーで歌われていたか知ることが出来る。たとえばアイヌ語聖歌 YESU EN OMAP「主われを愛す」は一番(聖歌集四九八)。

一番は KANDON EWA HATURUMBE で曲譜は(聖歌集三九〇「栄にみちたる」と同じ。どちらも馴染みの曲。

かつてのアイヌ語礼拝に思いを馳せ、皆で歌うことが出来る曲も多い。

(聖歌一番)

1.—YESU EN OMAP. *Jesus locas us.*

1. Yesu kane en omap Kambi otta anuye. Yesu okirashnu nep. Ku shitoma shomoki. <i>Yesu en omap, Yesu en omap, Yesu en omap, Kambi otta anuye.</i>	2. Yesu ikawari ne Kamui otta yaiyange, Ku ahun gusu ne na. Kando apa maka ya. <i>Yesu en omap, Yesu en omap, Yesu en omap, Kambi otta anuye.</i>
3. Yesu koro orushpe Ku umbipka shomoki, Kani Yesu omap wa, Kando otta oman na. <i>Yesu en omap, Yesu en omap, Yesu en omap, Kambi otta anuye. AMEN.</i>	

(聖歌一八番)

18.—KANDON EWA HATURUMBE. *Andric.*

1. Kando newa hauturumbe Chup ka nochiu ka nupeki; Utarapa kotchakegeta Nupetne wa ara reika: Shinuma itak ki poka, aige, Moshiri nei hawe nu, Shinuma sange kashpaotte Ramma nu gusu shinuma ramye yan.	2. Arakuru Utarapa Kamui sonep ne wa gusu, Shinuma koro utara Rai ambe ka annokara. Ri ushiketa an kiroro Kando newa moshiri, Son no un kashiobiuki Utarapake reihei pasere yan. AMEN.
---	---



が力強く響きます。

▽岩見沢聖十字教会

六月、人事の公示。体調を崩されていた池田亨司祭が管理牧師とチャプレンの任をおりました。長い間ありがとうございました。新しい管理牧師は永谷亮司祭。チャプレンは越山健蔵司祭が任命されました。宜しく願います。

▽旭川聖マルコ教会

六月に入りこれまで礼拝前後にCDで流していたピリカレラ モシリを歌うことに。毎月第二週に行われる婦人会の例会は、一九日に江丹別で開催。二六名も参加し、おもしろいものをいただきましたながら、学びも深めました。

二三日は、夏に備えて屋根裏から扇風機を下ろしました。三〇日は出会いと交わりの日。聖マーガレット教会より三浦執事をお迎えして、なごやかな交わりの時。この日に合わせたマルコ食堂は、婦人会によるカレーライス。気温も上がり、今年設置したエアコンが初運転となりました。記念聖歌の「ハレルヤ」

てイエスを救い主と信じ、自分自身をキリストに献げる」と記されています。

吉野司祭は「洗礼は神さまが示す道への『方向転換』の第一歩」と詳説して下さいました。深い学びの時間でした。

続いて東北教区の大館聖パウロ教会とユーチューブで接続、「小さな教会の物語を聞く」の上映会。受洗者五人の小さな教会が東日本大震災の際、被災地に手作り座布団を千枚も送ったことなど、感動的な話がリアルな画像で。笹森主教も出演、誰もが繋がりを強く感じたことでしょう。

三〇日、出会いと交わりの日。下澤昌司祭と奥様の依子姉が来岩。以前、管理牧師とチャプレンを務められました。懐かしさ一杯の礼拝でした。

幼稚園教諭の浦口咲紀先生は八月中旬に出産予定。産休と育休に入ります。母子とも健康でありますように。

▽釧路聖パウロ教会

▽厚岸聖オーガスチン教会

(伝道所)

聖霊降臨後第三主日は盛り沢山な主日となりました。

礼拝後、まずは恒例の「教会問答あれこれ」の勉強会。今回は問一九、『洗礼を受ける人に必要なことは何ですか』答えには『罪を悔い改め

会いと交わりの日」。松井新世司祭夫妻を迎える。松井司祭の聖書の福音的説教に聴き入る。聖餐式後、茶話会。松井新世司祭・野口環さん夫妻から、最近あった良い出来事を聴く。植松誠主教の司牧される岡谷聖バルナバ教会を訪ねたお話に、キリストに生きる者の姿を示される。

▽帯広聖公会

教会の庭のバラが今年は沢山美しい花を咲かせています。

二日、薄曇りのなか教会の周りの草刈りと雑草取りに汗を流しました。九日、幼稚園の運動会。教会の小さな窓から白いだるまと赤いだるまが行ったり来たり、本当にそのかわいさ姿は天使です。一〇日、マリア船津和枝さんが天に召されました。長きにわたる教会をお支えくださり本当に感謝いたします。三〇日、出会いと交わりの日。阿部司祭と奥様をお迎えし、ささやかな愛餐会を開きました。ピリカレラモシリを皆で歌い良い交わりの時を持ちました。

感謝。

▽稚内聖公会(伝道所)

六月二十四日、月に一度の聖餐式を行う。七月近くになっても、この日の最高気温は、一度でした。もちろんストーブを使用。礼拝後、外が雨模様のため、屋内の傷んだ箇所を補修を行いました。北の街稚内の短い夏もすぐここに来ています。

▽苫小牧聖ルカ教会

二日、ギデオン協会来会、礼拝後の聖書頒布のメッセージ。八日付けでファイベ野口環さん帯広聖公会から教籍が移る。一六日、主教巡回、笹森主教、沼原さん来会。幼稚園職員も参加しての礼拝。豊かな時となった。二一日、テモテ神谷真琴さんが王子病院にて逝去され、二二日葬儀を終えた。二八日埋葬式。故人の魂の平安と光明を覚え祈る。三〇日「出会いと交わりの日」、遠方から越山司祭来会。笑顔があちらこちらに見られる和やかな時だった。能登半島地震被災者キャロラインさん(ハンセン司祭愛娘)に募

金、黙想会信施合わせて五万円を捧げる。礼拝堂清掃のため、業務用掃除機導入される。

▽函館聖ヨハネ教会

八日平野雅樹さん、一六日吉岡曙生さんの埋葬式が行われる。そして三〇日は出会いと交わりの日。今回は弘前昇天教会の李司祭と信徒代議員の畠山さんをお迎えする。李贊熙(イ・チャンヒ)司祭の力強い説教に励まされ、愛餐会では畠山さんに県の重要文化財に指定されている聖堂を維持する大変さを伺う。どんな時も前を向いて祈りのうちに歩みましょうとの言葉に皆で頷く。その後は毎年恒例オープンガーデン。函館マラソンと日程が重なってしまっ

たが沢山の来客もあり、ジャズ演奏や咲き誇る薔薇を愛でる楽しいひとときになった。

▽平取聖公会

昨年一〇、一一月号でお知らせしたマンロー博士のお孫さんでドイツにお住いのアイリーン・マンローさん(六四歳)が六月に平取に来られ、その折に平取聖公会を

訪問された。マンロー博士の一九四二年の葬儀が前川真二郎主教と長澤義正司祭の司式で行われたことや、その折埋葬されたご遺骨を後の一九八八年に広谷和文司祭が

▽有珠聖公会

折埋葬されたご遺骨を後の一九八八年に広谷和文司祭が司式して、有志が建立した黒御影石の新墓に改葬されたこととお伝えした。バチラー宣教師との交流について内海司祭と井澤委員が説明した。バチラー保育園の今年のバス遠足は札幌円山動物園に行つて来ました。

六月一六日、笹森主教の巡回のもと、聖餐式をお捧げしました。聖餐式後「大館の教会の物語を聴く会」に、リモートで参加。教会での初ワイファイに苦労しながらも有意義な時間を過ごしました。場所を、熊澤さんのビニールハウスに移してジנגスキャンパーティー。雨天でしたが、ハウスの中は快適そのもの。大いに食べ、大いに語り合いました。

六月三〇日、「出会いと交わりの日」平取より内海司祭

をお迎えし、聖餐式が捧げられ、その後、茶菓での交わりを楽しみました。

▽留萌キリスト教会

寒暖差が大きかった六月。九日の主日礼拝後、チーム北国によるオンラインイベント「大館の物語を聴く会」を視聴し、千葉雅子さん、小林栄子さんが感想を述べる役目を果たすことが出来ました。大館の皆さんが互いに役を担っておられる様子は留萌も同じだなと思えました。そして東京の信徒さんが、そこが素晴らしいと言ってくれた事に私

たちも励ましを感じました。北海道そして東北教区の教会からも、留萌の私たちの顔を見て喜んでくださった様子が伝えられ、嬉しい日でした。

▽札幌キリスト教会

九日「大館の物語を聞く会」。大館の皆さんがご奉仕を続ける姿に励まされ多くの気づきを得ました。一七日、教友の多田義和さん葬送式、霊の平安とご遺族の慰めを祈ります。二二日、駐車場にてオリーブ会主催の拡大懇親会

で焼肉、近隣の教会のみなさんも参加してくださり大盛況。二三日午後「しらかばサロン合唱団」チャリティコンサート、席上募金は北海道いのちの電話、とよひら食堂に献金予定。三〇日は出会いと交わりの日、み言葉の礼拝を信徒奉事者団の司式、大町あすかさんの勧話でお捧げしました。

▽新札幌聖ニコラス教会

爽やかな季節を迎え、今年も教会をきれいにしていきたいの思いから環境整備を行つていきます。六月のはじめには、ベランダの老朽化した木材の撤去と外回りの草取りを進めることができました。また、主日ごとに教会の花壇やバス停横にお花を植えてくださる信徒がいらっしや、心地よい教会を保つことができています。三〇日出会いと交わりの日は、横山明光司祭に司式と説教のご奉仕をいただきました。礼拝後には、横山先生ご夫妻を囲んで愛餐会をひらくことができとても感謝しております。

で焼肉、近隣の教会のみなさんも参加してくださり大盛況。二三日午後「しらかばサロン合唱団」チャリティコンサート、席上募金は北海道いのちの電話、とよひら食堂に献金予定。三〇日は出会いと交わりの日、み言葉の礼拝を信徒奉事者団の司式、大町あすかさんの勧話でお捧げしました。

爽やかな季節を迎え、今年も教会をきれいにしていきたいの思いから環境整備を行つていきます。六月のはじめには、ベランダの老朽化した木材の撤去と外回りの草取りを進めることができました。また、主日ごとに教会の花壇やバス停横にお花を植えてくださる信徒がいらっしや、心地よい教会を保つことができています。三〇日出会いと交わりの日は、横山明光司祭に司式と説教のご奉仕をいただきました。礼拝後には、横山先生ご夫妻を囲んで愛餐会をひらくことができとても感謝しております。

▽札幌聖ミカエル教会  
一日は婦人会のお仕事会、キッチン清掃や収納の整理が行われました。

▽紋別聖マリア教会

二三日礼拝後直井徳子さんによる絵本セラピーを体験。それぞれの子ども頃を思い出し、絵本の世界に心が開かれました。翌日二四日の早朝にマルコ佐藤信吉さんが逝去されました。三〇日、日曜学校は朝の礼拝後に総勢六三名で円山動物園に遠足へ。み言葉の礼拝では横山光紀さんの奨励を聞き、ご自身の召命観を分かち合われました。幼稚園は七月六日の運動会に向けていよいよ大詰めです!

寒い日が続いていた紋別もようやく夏の暑さがやって来ました。今年の天気には驚かされます。九日飯野司祭の聖餐式が行われました。礼拝後教会委員会が行われ、墓地礼拝の日どりなどを決めました。大友園長、内竹さん、司祭で「大館の物語を聴く会」を拝聴いたしました。後日DVDが届くようです。六月

寒い日が続いていた紋別もようやく夏の暑さがやって来ました。今年の天気には驚かされます。九日飯野司祭の聖餐式が行われました。礼拝後教会委員会が行われ、墓地礼拝の日どりなどを決めました。大友園長、内竹さん、司祭で「大館の物語を聴く会」を拝聴いたしました。後日DVDが届くようです。六月

三〇日「出会いと交わりの日」、笹森主教が巡回でいらしてくださり、昼食を御夫妻と楽しくいただき、ありがとうございます。主に感謝です。

▽聖マーガレット教会

二日笹森主教による聖餐式。礼拝後のワンポイントレッスンは、教会の十字架について十字架の色々な形に秘める意味を教わりとても勉強になる。二ヶ月に一度の楽しみである。

九日礼拝後「大館聖ペテロ教会の物語を聞く会」

礼拝堂でプロジェクトを使いオンラインで他教会と繋がる。初めての試みに、教会の設備を見直す良い機会となる。

一四日藤野聖山園教会墓地で川口家の納骨式を行う。

委員会が一年間かけて協議した墓誌も完成し、今年の墓地礼拝が楽しみである。

▽今金インマヌエル教会

六月に入ると気温が高く、一雨ごとに作物や草木の成長が著しい時期となった。先日教会周辺の草刈りを信徒で実

施「あさつき」の株が多く見える。エゾネギの分類で、確か高血圧症の予防に良いと記憶している。また、ドクダミ等は地下茎が広がりどんな雨風にも負けず、絶える事が無い。どんな苦難に出会っても生き延びるための地下茎での繋がりの絆が役立つているのか、人間もそんな雑草達から見習う事がたくさんありそうだ。三〇日の出会いと交わりの日は、網走から飯野司祭が来町、主に感謝。

▽室蘭聖マタイ教会

六月に入り朝夕涼しく日中急に暖かくなり、寒暖差の違いに、高齢な私共、体調管理に難儀しております。

八日松井司祭御夫婦で来会、礼拝聖餐に与りました。

一日ヨブ記を読む集いが行われ、お忙しい所資料を用意して下さり感謝です。終了後先生奥様からの大福イチゴ等頂き、美味しく頂戴致しました。二二日礼拝のため司祭御夫婦で来会、聖餐に与りました。苦小牧の教会で御葬儀があるため、礼拝後直ちに

帰られる。

三〇日出会いと交わりの日、以前当教会の牧師をなさっていた甲斐司祭が来会する事になっております。

▽網走聖ペテロ教会

月一の学び会では今箴言を分かち合っているのですが、一七章まで来ました。この時間は「神は何をこの私に語っておられるか」の黙想の時となっており、恵みの時となっています。賛美と諸作業のペテロの会も祝されています。

出会いと交わりの日では、札幌から永谷亮司祭が来てくださり、司式・説教のご奉仕をして下さり、殊に、説教の中で「人生予想外のことが起こる」ことを深く分かりやすく説いて下さいました。

交わりの中では星座や写真などの先生のご趣味について興味深くお聴きしました。

▽北見聖ヤコブ教会

雑草たちが元気良く伸び、草刈りに達成感を増し加えています。

ト設置工事が完了し、司祭が確認してまいりました。四名の方々がお加わりくださいました。

出会いと交わりの日には札幌から永谷亮司祭が来られ、司式・説教の貴いご奉仕をしてください、交わりの中では皆がヤコブ教会との繋がりがあることに驚いたり、お墓についての質問もありました。

札幌の高橋玲子さんの来会も感謝でした。

▽深川聖三一教会

六月二日教区アンケートに回答す。九日教会報発送作業。一二日保育園職員会議、園内研修は森園保育士により食育についての指導あり。二二日神林直子氏により樋口分家の墓おさめの祈りが行われる。樋口至、綾子、紘、恵、協子、真の永遠の平安をお祈り申し上げます。第二回チャプレン会議。上平司祭の質疑により大いに盛り上がる。越山司祭の経験と蘊蓄ある発言に一同感謝。二三日宣教記念日、主教巡回日の礼拝、大友正幸司祭と吉野公恵さん出席。大祝

会となる。三〇日「出会いと交わりの日」吉野司祭来訪す。

▽新冠聖フランシス教会

一番牧草の大きなロールが転がる牧場が両サイドに眺めながら車を走らせ、六月末日の礼拝は「出会いと交わりの日」で、留萌聖公会より木村夕子司祭がお出でくださいました。また、札幌より熊谷泰彦夫妻も来教、うれしい交わりと学びの主日を過ごす事ができ感謝でした。

司祭からサクランボ、三浦すみ子姉よりお赤飯の差し入れ、ご馳走さまでした。

入院中の方、施設におられる方、自宅療養中の方々の平安のため、主の顧みと祝福が豊かにありますようにお祈りを捧げ、教会を後にしました。主に感謝。

冬期間実施出来なかった納骨堂への逝去者名の石プレート

